

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～



岩見沢市立北真小学校 山本校長

Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

子育てしている時は毎日が大変だと思いますが、人の可能性は、どこにあるかわかりません。管理職を目指したいという気持ちが少しでもあるのであれば、そこで諦めるのではなく、少しずつ力量を高めて、その気持ちをいつか実現して欲しいと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

私は埼玉県で教員をしていましたが、夫の仕事の関係で北海道にきました。

5年間、家庭で主婦、母親をしていましたが、平成16年、40歳の時に北海道で新採用教員として再スタートしました。

その当時は、管理職になるとはまったく考えていませんでしたが、教頭昇任した同僚の仕事ぶりを見ていて「自分もあのようにになりたいな」と思ったことが、管理職を目指す大きなきっかけです。

Q 管理職になって気づいたことは？

管理職になって気づいたことは、学校は個の力を集結してチームでボトムアップしていく方が、はるかに大きな力になるということです。対話を重ねながら、先生方が思い描くことやチャレンジしたいことを叶えてあげたいと思います。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

管理職になり、子どもに直接関わることは少なくなりましたが、逆に間接的には、より多くの子どもたちに関われます。それが、やりがいであり魅力です。

自分の働きかけによって先生方が頑張ってくれてそれによって子どもの笑顔を見たり、子どもの喜びに触れたりする場面を先生方が多く経験し、「子どものために、また頑張ろう！」という姿勢を感じられる時は、やりがいや嬉しさを感じます。

また、いろんな場面で保護者から「ありがとう」という声を寄せられたり、地域の方々からお褒めの言葉をいただいたりすると、とても励みになりますね。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！是非御覧ください！

Q 管理職になるために必要だった支援は？

北海道にきた時、親戚や知り合いが一人もいませんでしたので、管理職を目指すためには、家族の理解と協力がとても大きかったです。

夫は私を応援してくれる人なので、私が「管理職をやってみたい」と話した時は「やってみたら」と話してくれました。丁度、下の子どもが高校を卒業する時で、子育てが一区切りするタイミングでもありました。

当時の校長先生が応援してくださり、今でも相談に乗ってくれます。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てをする職員に対しては、不安や悩みを気軽に話してくれる関係性の構築に気をつけています。

学校はチームですから、お子さんの体調が悪い時や、休暇を取らなければならない時、「お互い補い合えるから、安心して！大丈夫だよ」というメッセージを送って、安心して子育てをさせてあげたいと思いますし、自分の家庭生活が充実してこそ仕事も充実するので、「優先すべきことは何なのか？今、大切にすべきことは何なのか？」それを強く言いたいと思っています。

私は職場に迷惑をかけたくない気持ちが強く、子どもの参観日や親子レク等については仕事を休むことはせず、参加してあげられませんでした。

でも、それが大きな後悔になっているので、「子育てしている時は、自分の子どものところへ行きなさい」と声をかけてあげたいです。

また、男性には、なるべく家事等の役割分担を担って欲しいですし、パートナーとよく話し合っ

インタビュー全文【岩見沢市立北真小学校・山本校長】

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

私は埼玉県で教員をしていましたが、夫の仕事の関係で北海道に来ました。5年間、家庭で主婦、母親をしていましたが、平成16年、40歳の時に北海道で新採用教員として再スタートしました。その当時は、管理職になるとはまったく考えていませんでしたが、教頭昇任した同僚の仕事ぶりを見ていて「自分もあのようにになりたいな」と思ったことが、大きなきっかけです。

他には、学校の様々な教育活動を実践していく中、それまでも他県と北海道の違いを感じていたある日、同僚に、「山本先生、ここは北海道ですよ。できると思いますか？」と言われたことがあったのです。それで、自分が思い描く教育活動を実践していくためには、一教員では限界があると思ったこともきっかけの一つです。また、丁度、下の子どもが高校を卒業する時で、子育てが一区切りするタイミングだったことです。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

私は北海道に来た時、親戚、知り合いが一人もいませんでしたので、やはり家族の理解と協力が、とても大きな支援でした。

夫は私が「やりたい」と言ったことについては、バックアップし、応援してくれる人なので、私が「管理職をやってみたい」と話した時は「やってみたら」と言ってくれました。

また、そこに至るまでに、ママ友や子どもを預けても大丈夫という人たちに出会い、そういう横の繋がりに、とても助けられました。これも私にとっての大きな支援でした。ママ友は、子どもが幼稚園や小学校に入るタイミングで知り合い、学校や幼稚園でPTA役員としての活動に参加した際につながった縁で、今もとても大切な方々です。

私は「管理職になる気はない」と公言していたので、周囲からあまり強い勧めはありませんでしたが、「管理職に挑戦しようと思います」と伝えた当時の校長先生は、応援してくださいました。今でも相談に乗ってくださったり、話を聞いてくださったり、支えていただいています。でも、今思うと、私が挑戦することを聞いた時、きっと校長先生は、びっくりしたと思います。今度お目にかかった時に、聞いてみようと思いますが、本当に人生とはわからないものですね。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

管理職になって自分の担任時代の姿を思い返すと、とても恥ずかしいと思うところがたくさんあります。一生懸命、がむしゃらにやってきましたが、子どもにもっと寄り添う姿勢や、教師としての専門性をもっと高めていくことが必要だったと自戒しています。だからこそ、先生方には「子どもにもっと寄り添ってごらん」「専門性、指導力を高めるために、どうしたらいいかな？」ということ伝えていかなければならないと気づきました。それから、学校は個の力を集結して、チームでボトムアップしていく方が、はるかに大きな力になることも、この立場になってよくわかりました。このような自分の経験や気づきを、できるだけ伝えていきたいと思っています。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

子どもに直接関わることは少なくなりましたが、逆に間接的には、より多くの子どもたちと関わられます。それが、やりがいであり魅力です。

自分の働きかけによって先生方が頑張ってくれて、それによって子どもの笑顔を見たり、子どもの喜びに触れたりする場面を先生方が多く経験し、「子どものために、また頑張ろう！」という姿勢を感じる時は、やりがいや嬉しさを感じます。

また、いろんな場面で、保護者から「ありがとう」という声を寄せられたり、地域の方々からお褒めの言葉をいただいたりすると、とても励みになりますね。

これは管理職ならではの喜びであり、達成感。頑張ってくれている先生方に感謝しています。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

組織として学校力を向上させることが本当に大切なんだと、管理職になって知りました。ですから、先生方がそのために「こんなことをやってみたい！」と思い描くことや、チャレンジしたいことがあれば、その思いを対話を通してたくさん聞かせて欲しいと思います。

思いを伝え合うと「それ、できるよね！」「それ、やってごらん！」というやりとりができ、先生方の後押しができます。先生方の思いを叶え、力を発揮して働きがいを感じてもらうために、子どもたちのために、と思うと管理職も悪くないよ、と伝えたいですね。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

不安や悩みを気軽に話してくれる、関係性をしっかり築くことです。

学校はチームだから、お子さんの体調が悪い時や、休暇を取らなければならない時、「お互い補い合えるから、安心して！大丈夫だよ」というメッセージを送って、安心して子育てができるように心がけています。

そして男性には、なるべく家事等の役割分担を担って欲しいですし、パートナーとよく話し合っただけで欲しいと思っていますので、そのような声かけをしているつもりです。

大学時代の話ですから、35年以上前になりますが、奥さんが小学校教員をしている大学の先生が「今日は妻が仕事で帰りが遅いので、私が先に帰って男の子3人のご飯を作らなければならないんだ。」と話す姿を見て、「そういうのっていいな～」と思っていました。

私の夫も、積極的に家事に関わってくれるので、とてもありがたいと思っています。

私は職場に迷惑をかけたくない気持ちが強くて、実際に我が子の参観日や親子レク等については、仕事を休むことはしませんでした。管理職から声をかけていただいていたと思うのですが、その言葉は耳に入っていなかったと思います。

でも、今は色々なことに参加してあげられなかったことが大きな後悔になっているので、若い人たちには「子育てしている時は、自分の子どものところへ行きなさい」と声をかけてあげたいです。

娘は「お母さんの生き生きと働いている姿がかっこいいな、と思っていたし、憧れているよ」と、今、言ってくれるのですが、娘にはさみしい思いをさせてしまい、申し訳なかったと思っています。

自分の家庭生活が充実してこそ仕事も充実するので、「優先すべきことは何なのか？今、大切にすべきことは何なのか？」それを強く言いたいと思っています。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

子育てしている女性教員に「子育てが一区切りついたら、その後の将来はどうするの？管理職を考えるの？」と尋ねると「私にはそのような力はないと思います」と、話をされることがあると聞きます。

謙虚なのかもしれませんし、実際、子育て真っ最中は、目の前のことでいっぱい、そこに考えは及ばないかもしれませんが、人の可能性は、どこにあるかわかりません。

子育てをしている時は大変だと思いますが、もし『管理職』という選択肢の可能性と、『管理職』を目指してみるのもいいかもという気持ちが少しでもあるのであれば、今から諦めるのではなく、少しずつ力量を高めていって、その気持ちをいつか実現して欲しいと思います。

[インタビュー実施月：令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。